第５回　三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会　議事録

<table>
<tr><td>件名</td><td colspan="3">第５回　三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会</td></tr>
<tr><td>日時</td><td>令和６年 12 月 20 日(金)
14：00～16：00</td><td>場所</td><td>三次市役所本館６階
601・602 会議室</td></tr>
<tr><td colspan="2">出席者（策定委員）17 名</td><td colspan="2">出席者（事務局・基本方針策定支援業務受託者）</td></tr>
<tr><td colspan="2">・林会長　・池上委員
・小川副会長　・増田委員
・浦田委員　・佐々木委員
・藤川委員　・長尾委員
・岩崎委員　・三上委員
・森川委員　・次川委員
・福田委員　・水越委員
・髙田委員　・岡崎委員
・今井委員</td><td colspan="2" rowspan="2">・迫田教育長
・宮脇教育部長
・豊田教育部次長
・藤本課長
・今井係長
・曲田専門員
・平主事
・(株）エブリプラン 2 名（基本方針策定支援業務受託者）</td></tr>
<tr><td colspan="2">欠席者（策定委員）3 名
・田中委員　・安田委員　・住岡田委員</td></tr>
<tr><td>議事</td><td colspan="3">（１）協議事項　「基本方針（素案）について」</td></tr>
</table>

１　開会

事務局　定刻となりましたので，ただ今から「第５回三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を開会させていただく。

傍聴の希望があるので，入室を許可する。
～傍聴者（3 名）入室～

本日の第５回策定委員会への欠席委員を報告する。
～3 名（田中委員，安田委員，住岡田委員）の報告～

３　協議事項

（１）基本方針（素案）について

事務局　～資料１に沿って説明～

佐々木委員　Ｐ1 下段に「『みよし学びの共創プラン』に掲げる『すべての児童生徒にとって魅力ある学校づくり』の実現に向け」とあるが,「みよし学びの共創プラン」の基本施策に「多様な居場所や学びの創出」については少し記載されているが,「魅力ある学校づくり」についてはあまり記載されていない。基本的な考え方として，かなり重要なキーワードとなるため，もう少し丁寧な説明が必要となるのではないかと考える。

事務局　「みよし学びの共創プラン」では，これから社会へ出ていく子どもたちも含めた，全ての子どもたち，あるいは市民が「みよし結芽人」となっていくことを大きなくくりとしており，社会全体の幸せを実現していくことを基本理念の方向性として掲げている。したがって，魅力ある学校づくりについても，「みよし学びの共創プラン」の中で，一人ひとりの子どもたち，関係者，そして市民がウェルビーイングを実現していくための学校教育とはどうあるべきかを「学校のあり方」という意味で整理している。

今，学んでいる子どもたちが社会の中心を担うのは10年，20年後となる。地域に新しい価値をつけ，次へ繋いでいく持続可能な三次にしていくといった基盤を学校の中で培っていくことが「学校のあり方」を検討していく1つのコンセプトだと考える。このような視点で「魅力ある学校づくり」を捉えていただきたい。

「魅力ある学校づくり」がなぜ大事かは，委員の皆さんと一緒に議論させていただいたことも含めて，しっかり説明をしていく。

佐々木委員　教育長が言われたことをもう少し本文に入れていただいたほうがよいと思う。「魅力ある学校づくりというものが，これからのあり方を考えるうえで重要だ」としておいてもらうのがよいと思う。

池上委員　ずいぶん見やすくなった。個々の学校で統廃合の検討をすることに不安があったが，Ｐ1下段に書かれた文章で安心した。Ｐ27の「ウ（改めエ）配置における検討事項」で，市全体としての考え方や，将来に向けた教育の場をつくるという表現が必要なのではないかと考える。Ｐ28，29に＜再編が考えられる相手校＞が記載されているが，誤解を招く恐れがあるため，不要ではないかと思う。避けて通れないことはわかるが，いきなり出てくると，これしかないと捉えられてしまうのではないか。例えば，中核となる小中学校を置き，その周りに特に配慮が必要な学校を配置するとか，特色のある学校を設置し，学校を選択できるといったような表現があればよいのではないかと考える。

事務局　市全体で考えるという部分については，前述との整合を踏まえ検討する。

Ｐ28，29の表については，対象校だけあると，これから先どうなるのかという疑念がわくと考える。現在の基本方針では，一定の規模となれば再編を考えるという表現になっており，その先は一切書かれていない。その先の展望を示した方が，皆さんが検討されるのに参考となるのではないかと考えている。もう少し説明を足す必要がある。

森川委員　Ｐ25「ア　地域との連携・協働」について，学校支援は協力企業や経済界を巻き込んだ活動により充実してきているので，協力企業を設置するというような文言を入れてもらいたい。鳥取県や滋賀県などでは，協力企業が支援体制を作っているが，広島県は協力企業との関わりが少ないため，考えていただければと思う。

また，全体を通して，家庭教育の支援体制について触れられていない。教育は保護者を抜きにしては考えられない。社会教育委員会議の中でも，コミュニティ・スクールの中で家庭の支援をしていかなければいけないと考え議論している。その点については，どのように考えているか。支援チームづくりについては以前提言書を提出しているため，提言書を読んでいただいた中で素案に加えてほしい。

事務局　ステークホルダーの輪を広げていきたいということを記載しているが，具体的に協力企業を設置するという表現を加えるかどうかは検討する。

社会教育委員会議や地域で家庭教育支援チームを設置していただいている。また，これを広げていこうということで，コミュニティ・スクールという一体的な取組の中で進めていただいている。Ｐ25，26に関係の広がりの中で家庭教育支援を行うといった具体的な記述も一定程度必要だと考えるため，内容を整理したうえで検討する。

岩崎委員　小規模の学校の良さについて発言してきた立場からすると，残念な内容となっている。Ｐ26の「イ　学びの選択肢の広がり」に「特色ある教育を行う少人数での教育の良さを生かした『「小規模特認校」』の導入について検討しま

す」とある。議論の中で，小規模校の良さというのも伝わったと思うが，「検討します」を「設置します」にする方がよいのではないか。

事務局　個々の学校という見方ではなく，市全体を１つの学びの場と捉え，その中で一人ひとりの子どもが本当に学びたいと思える学校づくりというものをどのように配置していくかということを示している。Ｐ28，Ｐ29 に掲げている具体的な案と「小規模特認校」や「学びの多様化学校」はセットで考えていくことが必要だと考えているため，検討するという書きぶりにしている。現段階では，全体で再編をしていくとともに「小規模特認校」や「学びの多様化学校」の導入を同じレベルで考えているため，検討ということで整理している。

岩崎委員　小規模校は残すという意味合いか。

事務局　多様な子どもたちがおり，学校になかなか行きにくい子どもや，集団にいづらい子どもが実際におり，学校に足が向かない現状がある。少ない規模であれば行けるという可能性は十分にある。そういった子どもたちも含めて，すべての子どもを支え，学びの場所をつくっていく。

岩崎委員　人口減少は確かな現状である。そのような中で，小規模校が三次市の特色となり，移住，定住の１つのきっかけとなるのではないか。なくすのではなく，小規規模の価値を高めることが，三次市の人口増加につながっていくのではないかと思う。

事務局　おっしゃることは受け止めていく。

国の基準からいうと，十日市小学校，八次小学校以外の小学校はすべて小規模校となる。現在の社会課題に向き合っていくためには一定の集団が必要ということは，これまでの基本方針でも述べており，今回もそのように考えている。

Ｐ26 に「(3) 一人ひとりに豊かな教育環境を保障するための学びの環境について」で整理しているが，テストのための学力が身につくような時代が長くあったが，一方では，粘り強さや色々な人とつながり合って生み出す力，失敗しても起き上がる力が大切であり，知識集約型の学びだけでなく，自分がどう生きたいのか，何がしたいのか，そのためには誰とつながっていくかなど，広く社会課題と結びつけたり，向き合ったり，色々な体験と結びながら自分の地域の良さだけでなく，三次の魅力を語れる子どもにしていくことが大切であることをここに整理した。

池上委員　小さい学校となるのは１つの現象であり，食い止めるのは難しい。地域も教育も頑張っていかねばならない。その中で，特色ある学校，つまり，児童生徒に選択される学校を作っていくことが必要だと思う。このことが，Ｐ26「イ　学びの選択肢の広がり」に記載されているのだろうと思うが，もう少しわかりやすく記載したほうがよいと思う。それぞれの学校で特色ある教育を築いていくことが重要だと考えるため，そのような記載がもう少しあるとよい。

浦田委員　Ｐ26「イ　学びの選択肢の広がり」について，特色のある学校を選択できることが大切であり，そのうえで不登校や集団への生活になじめない児童生徒も，そこを選択することによって，生き生きとした学びが生まれていくと思うので，書き方について工夫が必要である。また，フリースクールをどのように扱うかの記載があるとよいと思う。小中学校のあり方として，公立の小中学校ではなく，小中学校と連携したフリースクールに通いたいという子どもは実際にいるため，フリースクールとの連携について表現できるとよい。

事務局　フリースクールは学校の単位となることもあるため，書きぶりについては検討する。

事務局　　Ｐ26 の記載内容については，委員の意見を踏まえ検討する。

浦田委員　　Ｐ23 の「重点事項（２）」について，三次市全体の魅力を感じて育つことも大切であり，日本の子ども，地球の子どもとして育っていくことも大切だと考えるが，その前提として，地域の子ども，家庭の子どもがある。その地域との愛着が生まれることによって三次の子どもというアイデンティティができていくと感じる。その時に，子ども側からもだが，地域側からも小規模校の位置が離れることによって子どもの姿と距離的に離れるというデメリットがとても大きく出てくると思う。委員会の中で再編のデメリットも議論してきた。再編のメリット，デメリットについて記載してはどうか。議論してきたメリット，デメリットやその課題に対してどのように学校や地域が今後取り扱えばよいのかが見え，教育の方向を導き出す大事な資料となるのではないかと考える。再編のメリット，デメリットの整理の表が我々の会議の成果として必要だと考える。

事務局　　整理の仕方については検討する。
身の回りが基盤になることは間違いなく，それが広がっていくことが大事なことと考えている。Ｐ18 にあるが，学校からの発信による学校運営協議会の設置と並行し，地域からの発信により，地域学校協働活動として，地域の子どもとして地域活動に参画してもらうという一体的な取組である。こういった取組を踏まえながら，学校と地域との両側からの視点が必要だと考える。外へ広がっていく子どもたちの発想や学びへ地域としてどう関われるのか一緒に考えていただきたい。

浦田委員　　私たちの地域の捉え方，また，子どもたちと一緒につくっていく地域づくりをアップデートしていけるとよい。
Ｐ32 以降の「アンケートの実施結果」について，回答者は今までの経験をもとに回答している。その旨を記載したうえで，アンケート結果を掲載したほうが見る側への配慮ができるのではないか。

事務局　　コロナ禍を経てという意味か。

浦田委員　　学校のあり方について深く学んだわけではなく，回答しているという意味である。

今井委員　　私は不登校とは部屋から出てこない子どもをイメージしていたが，実際はそういった子どもではなく，好きなことや生き方，勉強方法を選択していく子どもが多い。昔と今では変わってきている。
このようにアンケートは，それぞれがイメージしたもので受け止められるため，アンケートの数字が独り歩きしてしまうことが懸念される。アンケートは一つの資料として捉えるべきだと思う。本文の後ろにつくと重く感じてしまうのではないか。

事務局　　一般的な意見を集めるのに，アンケート調査はよく使われる手段である。ここでは参考資料として掲示している。

岡崎委員　　このアンケートには自由記述はなく，選択肢の中から選ぶ設問のみなのか。

事務局　　今年度実施した小学生と保護者へのアンケートはどちらも自由記述を設けている。保護者の自由記述については，素案に掲載の通りである。

岡崎委員　　先ほどの話を聞き，例えば，Ｐ35「問 4．学校生活の中で好きな時間はなんですか。」で，不登校の子どもの中には，自分の部屋で好きな授業の受け方で勉強をしている時間が好きという子どももいる。そうなると，アンケート結果が変わる場合もある。アンケートの取り扱いは言葉の表記や付けたしなどで工夫した方よい。アンケートが独り歩きしてしまう。
魅力ある学校を考えるときに，Ｐ25 からＰ27 にあるメリットを生かし，ある

程度の規模は必要だが，検討していく中でアンケート結果だけを見てしまうと，どこから導き出されたのかがわからなくなってしまうこともあるのでないか。
最も大事なことは，大きい学校であっても小さい学校であっても，自分がどちらかを選べる選択肢があるし，どちらの学校に行っても，「こういうこと」が実現できる学校であるということだと思う。「選ぶ」ということが実現のための始まりだと思うので，それがイメージできる「これからの学校」がもっと伝えられるような表現がよい。

今井委員　読み進めていく上でとても読みやすくなったと感じた。
大事にしたいことは，子どもたちに自分の居場所があり，自分で生きていく力をつけ，なおかつ，三次が大好きでいること。また，自分の人生を悔いなく生きていけるように小中学校の学習の時期を過ごすためには，今までやってきた良いことも伸ばしながら，三次で今しかできないことがあると知ってもらう必要がる。そして，そのためには学校にある程度の人数が必要ということも知ってもらう必要がある。このようなどうしても外せないことが，この基本方針には，たくさん掲載されている。あの時，学校が変わり，あの学校に行けて良かったというような意味合いのことが入っていると，子どもたちに夢を持ってもらえるのではないか。今，満足している子どもたちもいるだろうが，ほかの世界を知らないと思う。変わるということで，次の世界を見せられるきっかけづくりをしているこの話し合いに期待している。

事務局　両委員の意見はしっかり受け止めさせていただく。一緒に考えていただいていることに感謝している。また，子ども一人ひとりがしっかり自分の人生を選択して，そして生きていく，そういった基盤となる学校教育を三次で実現することを目指したい。

佐々木委員　小中学校のあり方は，「みよし学びの共創プラン」がベースにあり，三次で育った子どもたちは，これからの課題に対応し，色々な面で求められていることに対応するためには，方針にある「学び」の内容を重点的に行う必要があると思うが，「みよし学びの共創プラン」と混同するような前段となっているため，もう少し整理することはできないか。今回の基本方針は，何が大事か分かるように書くとよい。例えば，Ｐ23「１　めざす学校教育」に「主人公として輝き続けられる環境が必要です」とあるが，その環境はどういう環境なのかわからない。どのような環境が必要か示すとよいのではないか。

事務局　「みよし学びの共創プラン」を基本としてスタートしている取組である。「みよし学びの共創プラン」の具現化を目指すため，学校のあり方を整理し，具体的な推進計画を記載している。

佐々木委員　「みよし学びの共創プラン」が基本となった基本方針で，環境が大切だということになれば，「その学校における周りの環境」や「地域と連携した学びの環境」などで補完されていれば理解しやすい。

事務局　共創プランと整合が取れて，この小中学校のあり方の内容として繋がるように，再度精査する。

浦田委員　Ｐ1「はじめに」の「そのために，三次市の全ての子どもが，『行きたい』『もっと学びたい』とワクワクする学びを提供する学校教育を実現することが最優先の課題です」が大切だと思うが，ここで「提供」という言葉に違和感がある。子どもが主体性を持って読むことできるよう，「ワクワクする学びができる」のような子ども視点の表現がよいのではないか。また，子ども自身がこれを見てワクワクしてほしい。「行きたい」「もっと学びたい」は行く前の話なので，今の感情を入れるのに「楽しい」という言葉などを入れると「行

っている」状態が，どうあるかを書き込むことができるのではないか。
Ｐ23 からの文章について，書いてあるがわかりにくいのではないか。書かれている内容が一目見て受け取れるよう図を加え，その後に説明があればわかりやすくなるのではないか。
Ｐ27「イ（改めウ）めざす学校規模」について，私自身，小規模校の魅力をすごく感じている。「すべての学年で単式学級とし」と結論付けられているが，Ｐ26「イ　学びの選択肢の広がり」とつながる言葉なのか。広島大学でも複式学級の研究をしたり，また，世界的にも単式だけではなく，縦割り学級であったり，わざと複式を作っていたり，複式学級ならではの良さがある。それもデメリット，メリット両方あるが，単式学級とすることは三次では結論づけられているのか，それとも選択肢として残されているのか，ここで読めるとよい。

事務局　Ｐ1 の表記については修正する。
Ｐ23 については，事務局でも分かりやすい表現ができないか検討していた。引き続き検討していく。
Ｐ27 について，Ｐ26 にア・イとあり，また，Ｐ27 にイ・ウとあるが，Ｐ27 のイはウで ，ウはエと訂正する。規模については，Ｐ27 のイ(改めウ)に記載されていることを基本とし，その中で学びの選択肢をどう広げていくかを考えていく。

三上委員　必ず再編は行われると思うが，対象校となっている学校では，いつ統合になるのか気になると思う。これを見たときにいつなのか不安でしかない。再編については，今後協議すると書かれているが，漠然としていて濁したような言葉としか見えない。

事務局　まずは基本となる規模，あるいは，学びの選択肢に関する皆さんの意見を事務局で整理した上で，基本に当てはめ，どの学校が対象になるかを検討した。また，「みよし学びの共創プラン」を基本としているため，令和 10 年度を 1 つの目安として考えていくことも踏まえ，ここに掲げた。
今日，皆さんのご意見を踏まえ，素案の最終検討とするが，今後，保護者や学校，関係団体との意見を聞くこととしており，その上で 3 月の策定委員会の時に時期を含めて，具体的な内容をお示ししたい。

池上委員　教育長の発言のとおり，早く意見を聞くべきである。令和 4 年 3 月に策定した「三次市立小中学校の規模及び配置の適正化について〈基本方針〉」によると，対象校は既に検討する時機に入っている。早く市民の意見を聞き取り，方向性についてまとめるべきである。

林会長　待ったなしの状況になっている学校があり,10年度までにというのではなく，もうすでに進めなければならないが，小中学校の規模を示すことによって，時期などを考えるのは不安かもしれないといった話があった。しかし，地域や親の都合ではなく，児童生徒が主役になって考えていく場を持たなければならないのではないかと感じた。今後，子どもたちがどのように考えていくのかということを聞く場を持てるのか。

事務局　主役は子どもなので，意見を聞くということは大切だと考えている。一定の意見を小学生に聞いており，一昨年は中学生と高校生から意見を聞いている。自分の周り以外のところが十分に広がっていない小学生ではなく，対象者の目安を中学生とし，聞き方などを工夫しながら，意見を聞く検討はする予定している。

森川委員　Ｐ26 に「コミュニティ・スクールは，再編に向けた検討が必要です」とあるが，現在，コミュニティ・スクールの再編検討について，色々な形で推進委

員と話し合いをしている段階である。いろいろな地域間での話し合いは，ここを通して行ってほしい。また急いで実施するべきである。

福田委員　Ｐ17 の「教職員配置の課題」について，現状と課題の記載はあるが，それを解決するための取組があれば記載したほうが市民は安心するのではないか。
Ｐ18 のコミュニティ・スクールについては，ホームページなどで市民や市外の人の目に触れることもあると思う。活動実績も記載できれば，コミュニティ・スクールを知らない人でも理解が深まるのではないか。また，こういった活動に魅力を感じ，人口増加に寄与するかもしれない。

事務局　現在，中学校区単位でコミュニティ・スクールがある。再編となれば，見直しは必要になるため示している。また，地域学校協働活動推進委員との十分な協議やご意見を聞かせてもらうことは必要だと考えている。
教職員配置の課題については，「みよし学びの共創プラン」に教職員も含めたウェルビーイングの実現を記載しており，今回策定する方針の中にも重点事項として掲げている。課題に対する具体的な取組としては，市費を配置したり，複式などの学校については，複数の学科をカバーできような配置も行っている。こういったところも含め，少し記載が丁寧にできるか検討する。
コミュニティ・スクールの活動実績は多くある。内容も含めて実績を紹介できるか検討する。

藤川委員　P15～P17 について，教職員の数が不足していることが記載されているが，これは，法律に基づいて配置した場合不足するという意味か。

事務局　法律に基づくと，例えば，3 クラスの学校では教諭が 2 人配置され，複式を教えるためには教諭が足りない現状である。実際は臨時的任用教諭を配置して対応している。また，完全複式の小学校においては，教頭が担任と教頭職を兼務していたり，特別支援学級を教えている現状である。

藤川委員　完全複式や複式は国としては好ましくないという認識なのか。

事務局　好ましくないとは明確に発信されていない。法律で学級数に応じて教諭数が決められている。本市に当てはめたものを P15・16 に記載しているが，この表からは，例えば，河内小学校では 3 学級あるが教諭が 2 名しか配置されておらず，残りの一クラスは教頭が管理職をしながら担任を兼務するという状況があることが見て取れる。中学校では，3 学級の場合は 7 名教諭が配置される。中学校は 10 教科あるが 7 名しか教諭がいないため，非常勤講師で対応していたり，また複数校を兼務している状況もある。このような場合，やってみたいことがやりにくい学校運営となっている。
国から，小学校においても教科担任制を導入するよう示され，Ｐ26 の「ア　学びの多様化」へ記載しているような教育内容を実施しようと思っても，人数が少ないとやりたくてもできない状況が生じてしまう。さらに複式の場合，一人の教諭が 1 年間 2 学年を見続けることとなる。本来であれば，1 つの学年を教えるべきだと考えている。そういった状況の中で複式学級が運営されていることを共有していくべき課題として挙げている。

今井委員　課題であれば答えが必要となるので現状というような表現にしてはどうか。

事務局　求められている，多様な学びの広がりを作っていきたいという面では，課題であると捉えているため，このように示している。指摘のあった，現状，あるいは課題の対応はどうかといったところについて，見出しも含めて整理を検討する。

林会長　少し書き加えたり，文言の修正を行う必要はあるが，素案としてこのまま進めてもよいか。

池上委員　我々は，素案について議論し，意見を出し合い，修正について提案したため

今回の話を踏まえて，最終版を作成していけばよいと考える。

髙田委員　時代とともに総合学科が生まれ増えてきている。また普通科も改革に力を入れている。三次青陵高校は就職者も進学者も両方いるが，就職者に対して「社会に出る最終ステージである」といっている。現在は主体的に考え，課題解決できる力が大切だという教育に変わってきている。社会に出て自立できることが必要であると考える。そのためには，自分で考えて行動できる，自走できる力をつけることが必要であり，学び続ける力をつけることが大事である。人生 100 年時代と言われ，学校で学ぶことよりも，社会に出て学ぶことが多いなか，小学校から高校は学び続けられるベースを身につけるような教育が必要である。また，生徒の確保も大切である。本校では持続可能な三次青陵高校をテーマとしており，学校が存続するだけでなく，教育内容も持続可能となることが大切である。良いことをうたっても，実施できなければ意味がない。そうすると 10 年後を見据え，教育内容が持続可能かどうかを考え，最適なカリキュラム・マネジメントを進めている。

生徒が減ることは想定していたが，指数関数的に減少している。また，生徒が減少する中で平成元年の進学率は 40 数%，現在は進学率 60 数%となっている。以前とは違い，企業も人が集まらず，私自身も危機感を感じている。そういった中で，三次市全体で，最適なシステムや学校の配置も考えていく必要がある。また，生徒のことを考えると学びを止めてはいけないと考える。本校の例をみると，まったく学校に来ることができない人も環境が変われば来ることができる生徒もいる。来ることができない生徒は通信制の学校など自分に合った学校を選んで次のステージへと進んでいく。

義務教育は同じような教育をしながら，各学校で特色を出すと言いながらもある一定のレベルと内容にしなければならないため難しい。しかし，学びを止めてはいけないため，選択肢として小規模校があってもよいし，大規模校があってもよいと考える。一方で行政的，財政的な前提条件を見ながら考えていく必要がある。オンライン授業もあるが，先生は準備やそのための知識を身に付ける必要があり，大変忙しい。また，大規模校よりも小規模校のほうが掛け持ちをすることもあり，忙しい。授業量も増え，スキルも身に付ける必要がある。このような現実は教育に携わっていない方は知らない。それらも含めて教育委員会で意見を聞きながら，最適な教育を実施していただきたい。

林会長　委員のみなさまには，円滑な進行にご協力いただき，ありがとうございました。ご協力により，予定していた協議事項は終了した。

本日の協議内容を含め，事務局で整理され，第 6 回の策定委員会で示していく。委員の皆様には，引き続き，ご協力をよろしくお願いする。

小川副会長　この委員会では，いろいろな視点で考えられ，また，建設的な意見が出されており，素案が深堀され，成熟されたと思う。今回の議論の中で「選ぶ」という意見がたくさん出されており，子どもたちが「選べる」ということを 1 番前において熱心な議論が進んだ。昔は学区が決まっており，学校を選ぶことができなかったが，今の子どもたちはここにいる大人たちが一生懸命，子どもたちの未来のために選択ができるということを考えてつくっていただいていることは大変素晴らしいことだと思う。様々な課題や状況の中で，子どもたちが選べるということを一番に考えていこうという気概が感じられた。

時代は変わり，みんなが変わっていく必要がある中で，子どもに対して「子どもは地域の宝」「地域で子育てをやっていこう」「地域から子どもがいなく

なると声が聞こえなくなって寂しい」などと言ってはいないかと考えてしまった。子どもが聞くと，いろいろなことを考えてしまう。まずは自分たち含め大人たちが変わっていかないといけないのではなかろうかと強く思った。子どもたちの声が聞きたかったら，自分たちで子どもたちの気を引くように工夫するべきである。子どもたちとふれあうことで，地域に子どもが育っていく。皆さまの意見を聞いて，視点を変えれば押し付けているようなことがあるかどうか，自分の視座を広げる良い機会となった。
本日出た意見を踏まえて，次回の方針がどうなるかを楽しみにしている。

4　その他（連絡事項）

事務局　　林会長，進行ありがとうございました。

今後の策定スケジュールについて説明する。

～資料 2 に沿って説明～

第 6 回策定委員会は，3 月 14 日（金）の 14 時から，三次市役所において開催する。説明会やパブリック・コメント等でいただいた意見の報告や今回いただいた意見を踏まえた素案の最終調整を行う予定である。

5　閉会

事務局　　以上で，「第 5 回 三次市立小中学校のあり方に関する基本方針策定委員会」を終了する。
本日はありがとうございました。